

ずいひつ ①

Z U I H I T U



令和3年度日本水道協会全国会議開催に向けて

仙台市水道事業管理者
芳賀 洋一

今年は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災から10年という節目の年となりました。

本市水道は震災により、ピーク時で断水率50%にあたる23万戸が断水しましたが、応急給水に全国63の事業者から応援隊が駆けつけてくださり、また、民間事業者様などの協力のもと進められた復旧作業により、発生から約3週間後には概ね断水を解消しました。ご支援いただいた全国の皆様に改めて感謝申し上げます。

震災以降、本市では、災害に強い水道づくりに取り組んでまいりました。水道施設や管路の耐震化、水系の多系統化等のハード面の強化や、町内会との災害時給水栓の操作訓練、他事業者や関係機関との応援協定の締結等のソフト面の強化を図り、また、震災での経験や復興への取組みについて、国連世界防災会議などの様々な場を活用して情報発信してまいりました。

全国会議では、水道事業に従事される皆様との交流や意見交換等の場としてはもちろんのこと、東日本大震災から10年が経過した現在の仙台の状況や、震災遺構である荒浜小学校等を視察いただくなど仙台開催ならではの企画も準備しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防のため、残念ながら皆様を仙台にお迎えすることができなくなりました。

現在、日本水道協会ホームページにおいて、参集に代わりオンライン開催に向けて準備が進められており、全国会議において予定されていた水道研究発表会やシンポジウムなどの各種イベントは、ホームページに各コンテンツを掲載することで情報提供が行われる予定です。本市としましても、仙台の水道施設や災害対策の取組み、その他仙台の魅力等についてご紹介させていただきます。

全国の皆様のご協力をいただきながら、より実りの多い会議となるよう全力を尽くしてまいりたいと考えております。(令和3年9月25日執筆)



コロナの先にある未来に向けて

株式会社東京設計事務所
代表取締役社長

狩谷 薫

世界中、コロナ一色である。都市の遮断、国境の閉鎖を経験した国もある。我が国の対応は緩やかだが、心理的にはこれに近い。このような騒動を描いた小説が1947年にフランスで発行された。アルベール・カミュの『ペスト』である。疫病ペストの発生・流行に伴いロックダウンされた都市、アルジェリアのオランに閉じ込められた人々を襲う不合理な出来事と市民の心情を綴った名作である。フィクションであり、「ペスト」は戦争、貧困といった社会悪などを象徴しているらしい。

今回のパンデミックも、疑いもなく受け入れてきた、必ずしも合理的ではない常識を明らかにした。場所に拘束された執務環境や情報蓄積・共有、そのために混雑を我慢し時間を浪費して行う通勤、職場と職員との信頼関係のあり方、各種セキュリティの脆弱さ、限定的で不十分なリスク管理などである。一方、face-to-

faceでの多様なコミュニケーションの価値・重要性も再認識されている。

人間の叡智は、近い将来コロナの脅威を克服するであろう。しかし社会は思いがけず遭遇した災厄と諦めるだけでは報われないほどの代償を払ってきた。払った代償に報いるために、その先の未来に教訓を活かす必要がある。コロナ騒動を機会と捉え、将来に遭遇する様々な災厄・災害に備えるとともに、未来の変革を前倒しで実現してこそ代償は報われる。

社会全体で、時間的・空間的なロスを極小化し、信頼性の高いユビキタスな知識・情報システムを確立し、効率的で人間味のあるコミュニケーションシステムを構築する必要がある。また、温暖化の影響や大規模な地震などをも含む未曾有の危機に備え、新たな社会・生産システムの構築が望まれる。

我々もVirtualとface-to-faceのメリットを伴に享受できるコミュニケーション、カルチャーの醸成を図りたいと思う。我々の社会、業界の明るい未来が再生されることを願う次第である。